

## 事業概要

応募No.	2		
事業主体	北見市	実施都市名	北見市
応募者名	北見市 都市建設部土木課		
ふりがな 事業名称	きたみとしけいかくどうろ きたみえきしゅうへんちくせいびじぎょう 北見都市計画道路 北見駅周辺地区整備事業		
事業概要 (400字以内)	<p>JR北見駅はJR石北本線の特急停車駅であり、オホーツク圏最大の利用者数がある北見市の玄関口であるが、駅前広場は整備から30年以上経過しバリアフリー化されておらず、また、バスの乗り入れがされていないなど交通結節点としての機能が十分確保されていないことが課題であった。</p> <p>急速に少子高齢化が進む中、市はバリアフリー基本構想にて本駅前広場を特定経路に位置付けるとともに、北見市都市再生整備計画及び中心市街地活性化基本計画において駅前に各種交通機能を集積させることにより利便性を向上させるという各種上位計画のもと、人口及び鉄道利用者数の減少に合わせて駅前広場の都市計画決定区域を縮小し、空いたスペースにバスターミナル機能をもつ交通広場を新たに都市計画決定することにより、鉄道、都市間バス、路線バス、デマンドバス、タクシー等の多様な交通を集積し交通結節機能の強化を図り、バリアフリー化を含めた再整備を行ったものです。</p>		
事業規模	事業面積	約8,100㎡	
	幅員	-	
	事業期間	平成28年度～平成30年度	
	事業費	約11億円	

# 事業位置図



ご当地グルメ  
オホーツク北見塩焼そば



北見産ホタテ (水揚量日本一)  
北見産玉ねぎ (生産量日本一) を使用!

カーリング  
のまち北見

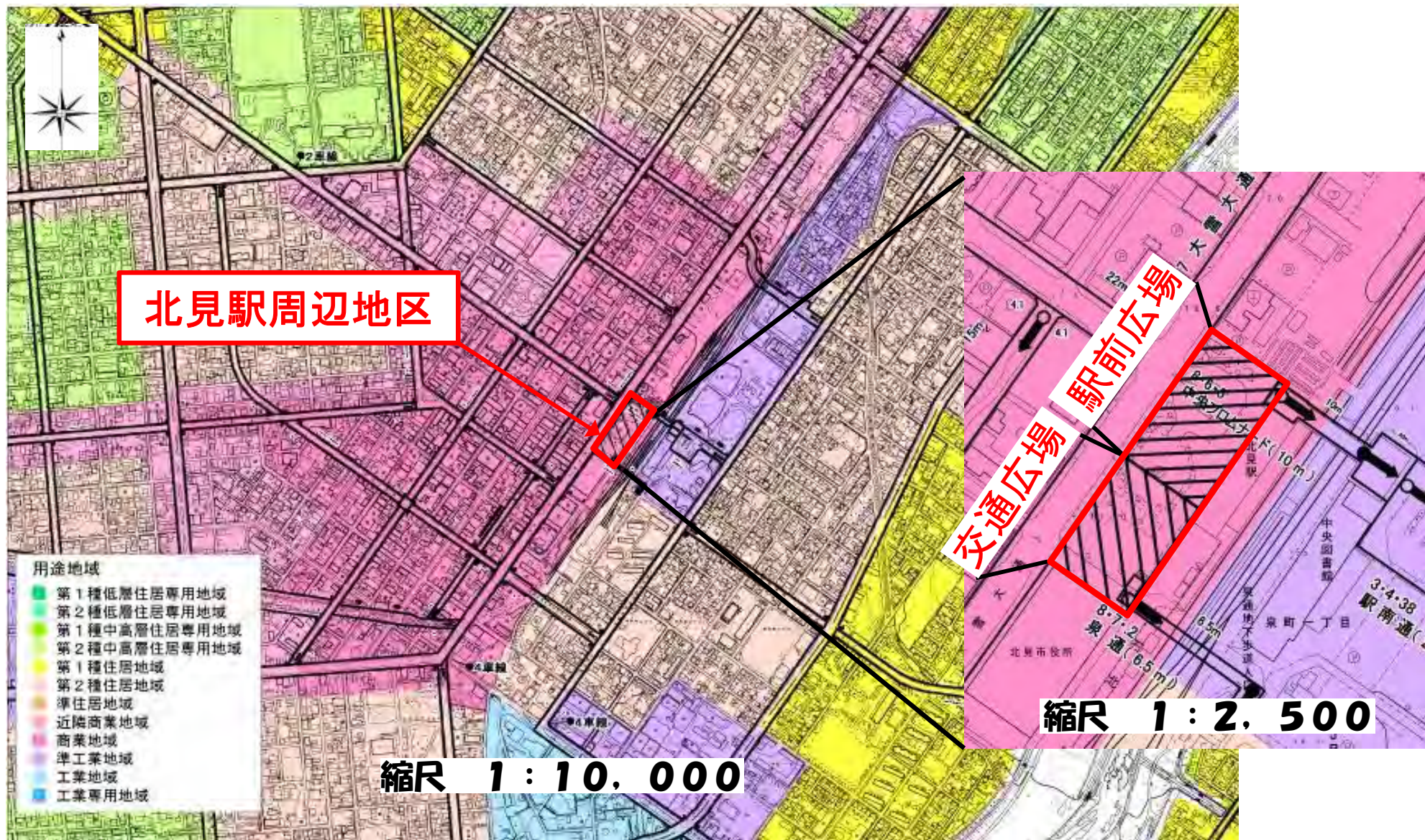


ハッカ生産量世界一  
(昭和14年当時)





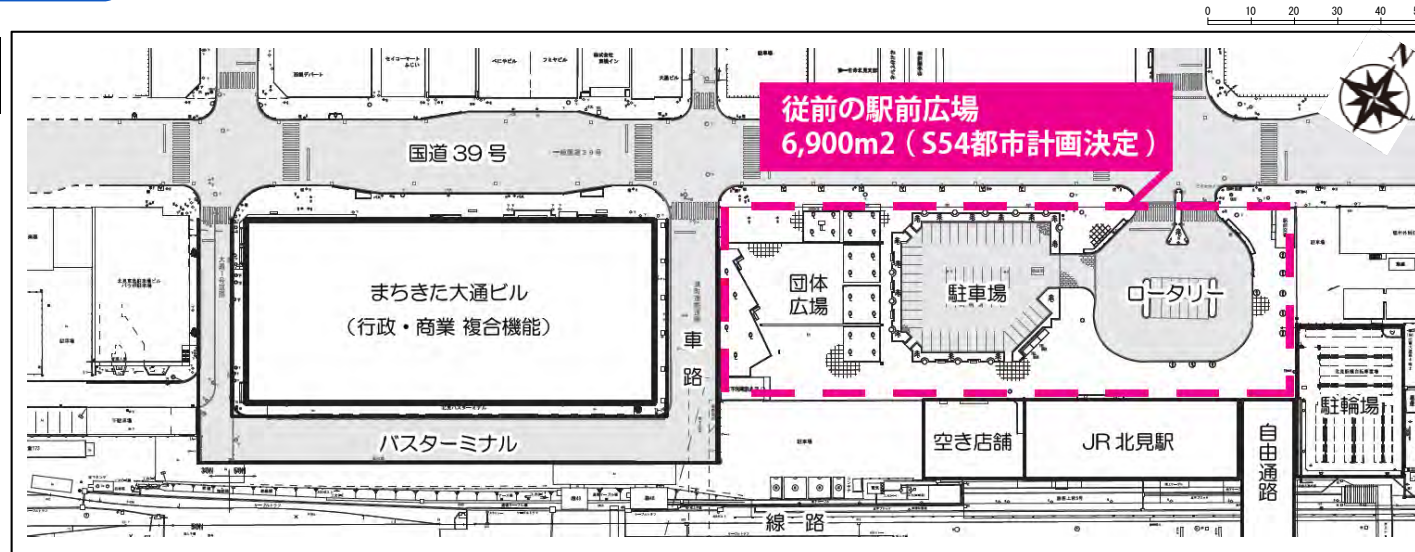
# 都市計画図(用途地域図)



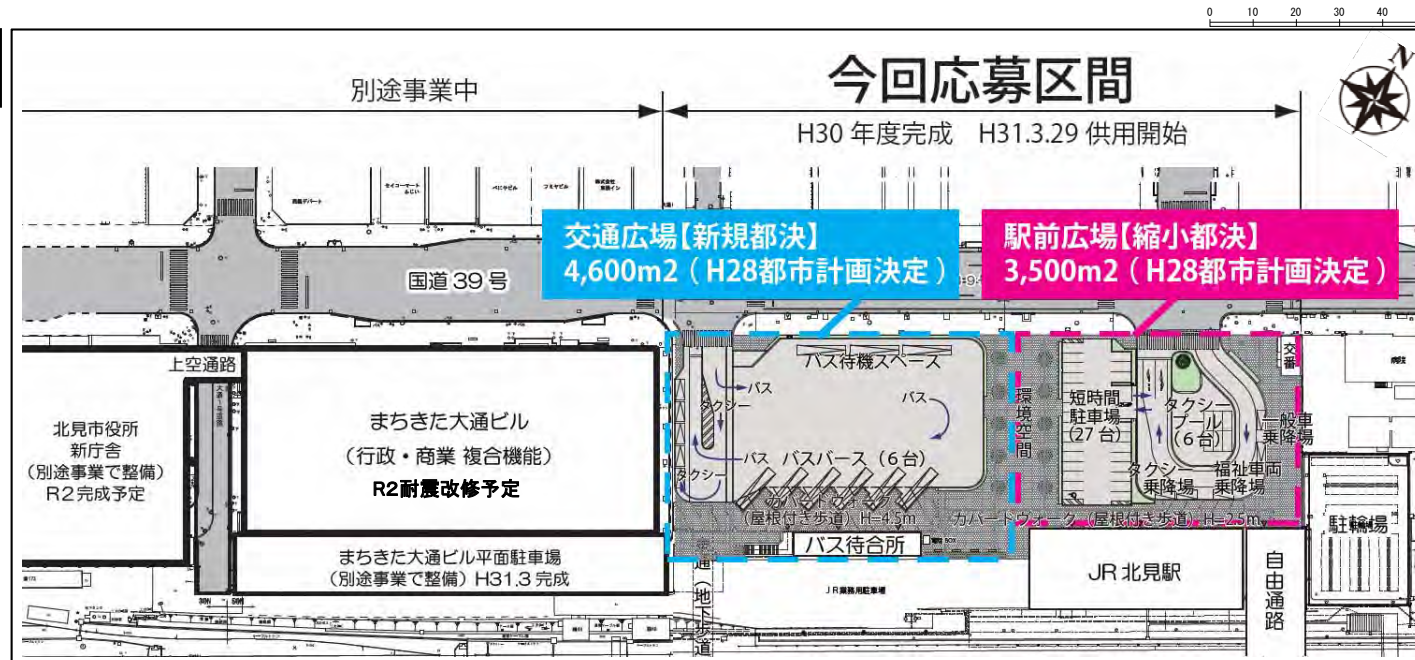


# 平面図

## 事業前



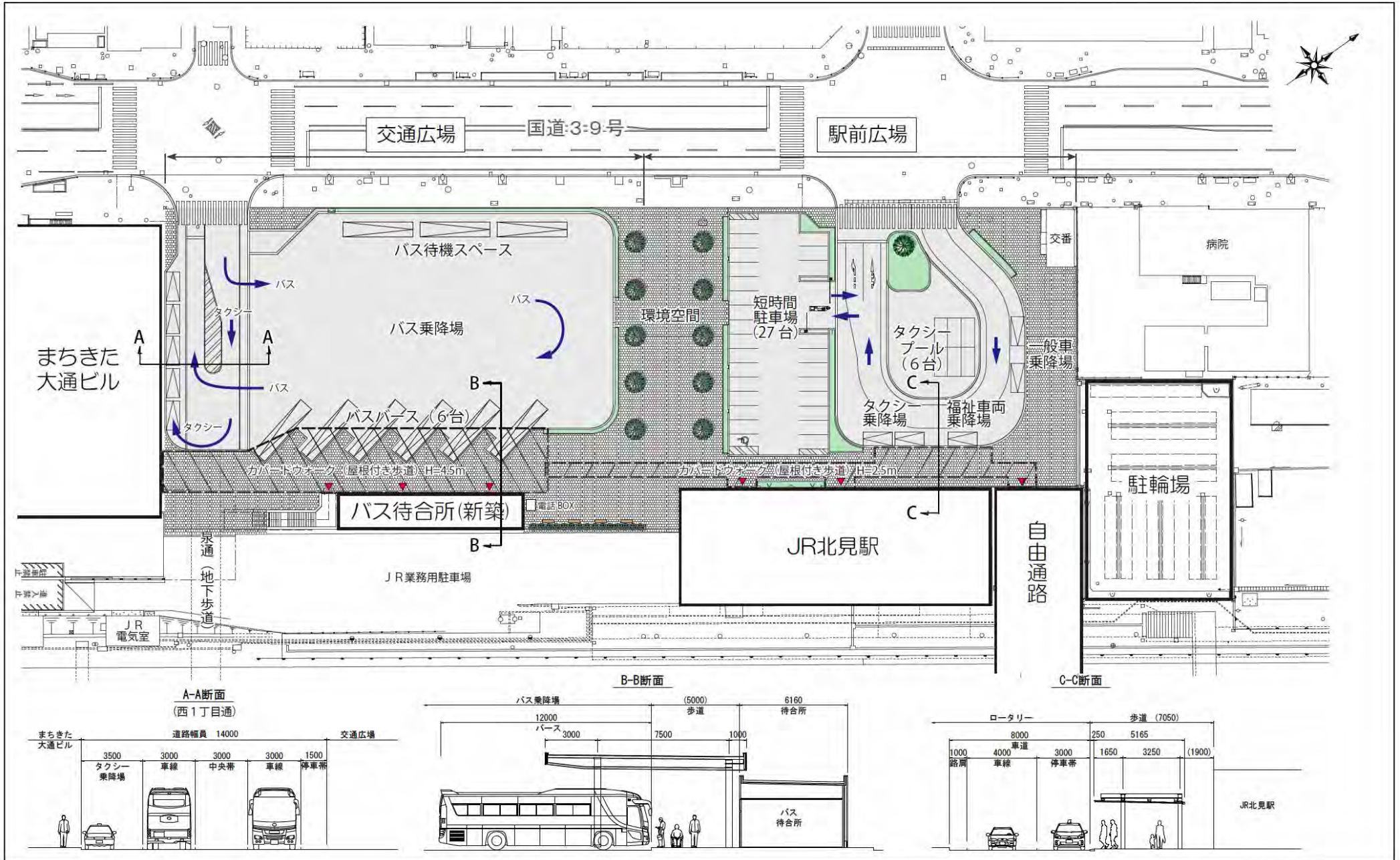
## 事業後





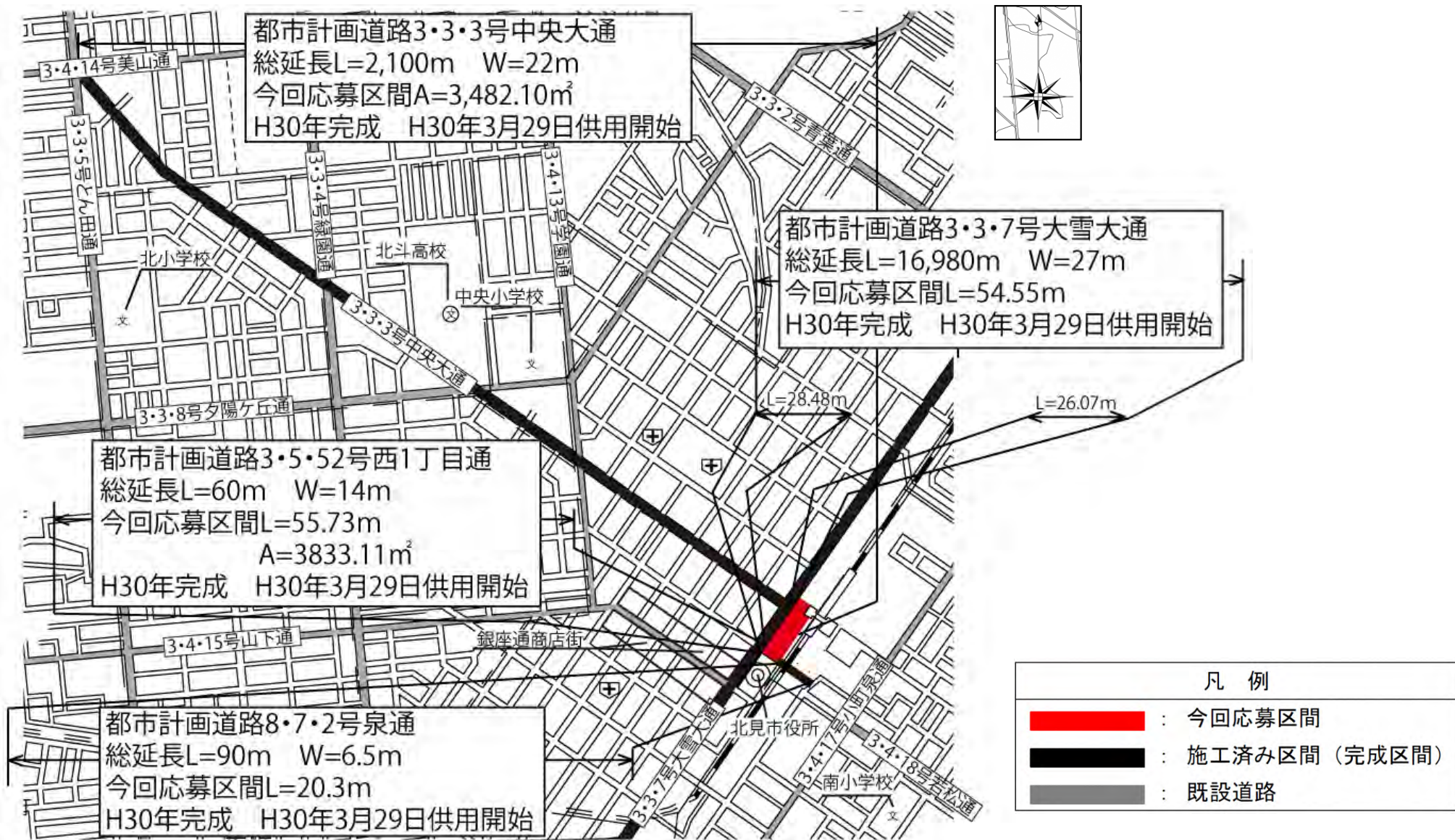
# 拡大平面図・横断図

(北見駅周辺地区整備事業)





# 路線全体の進捗状況





# 事業前写真

(北見駅周辺地区整備事業)



昭和60年6月撮影



平成26年6月撮影(旧バスターミナル写真)

# 事業後写真



令和元年6月撮影



令和元年10月撮影

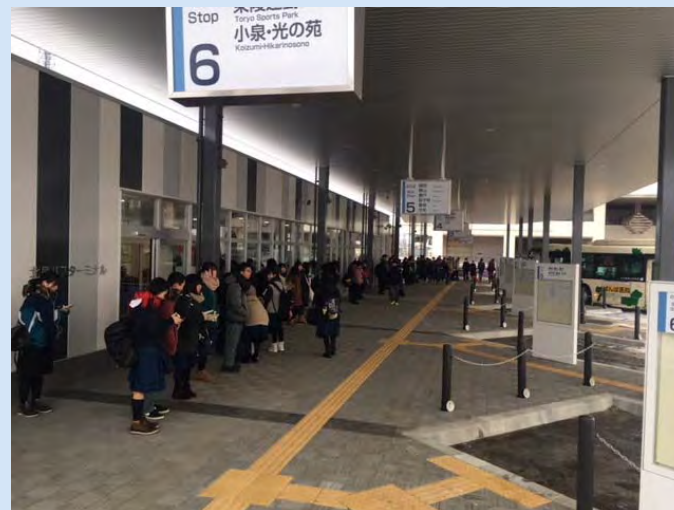


# 事業後写真



令和元年10月撮影

タクシーや  
身障者用  
乗降スペース  
にも屋根が  
付きました！



平成30年12月撮影

バスターミナル  
にも屋根が付き、  
雨の日でも快適  
に利用できる  
交通結節点に！



令和元年10月撮影

街路事業の整備  
に合わせて、  
日本郵政㈱が  
ご当地ポスト  
(カーリングポ  
スト)を設置。  
観光スポット  
に！



令和元年6月撮影

整備後には  
マルシェが  
初開催！  
駅前広場が  
にぎわいの  
スペースに！



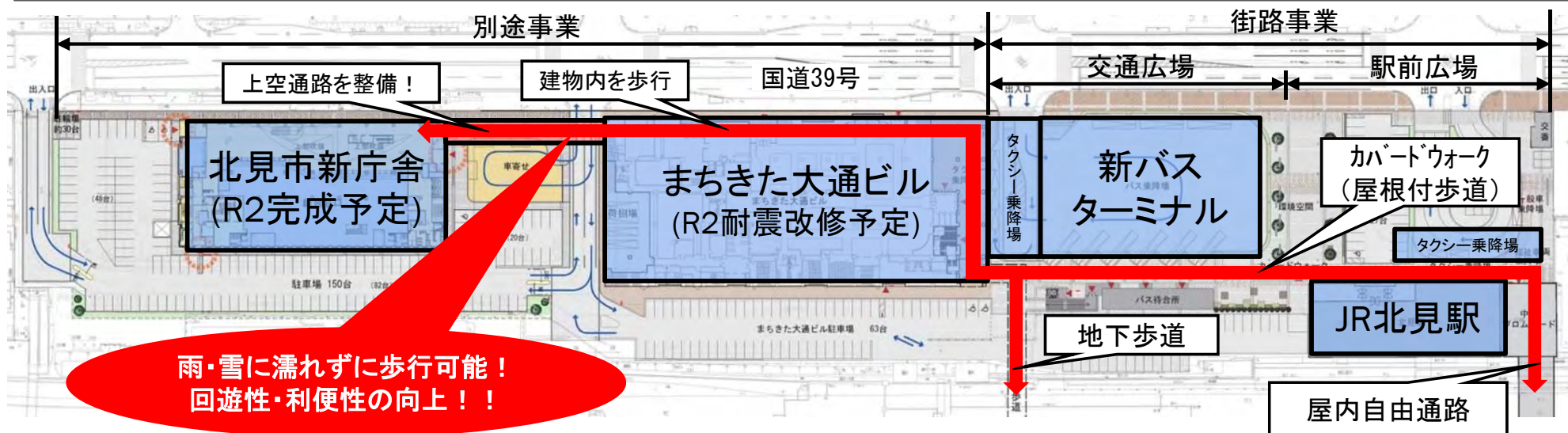
## 事業効果アピール資料

### ◎カバードウォーク整備に伴う利便性の向上

カバードウォーク（屋根付き歩道）の整備により、

北見市新庁舎 ⇄ まちきた大通ビル ⇄ 交通広場（バスターミナル） ⇄ 駅前広場

の回遊性、連続性や快適性が劇的に向上！





# 事業効果アピール資料

## ◎駅前広場を縮小し交通結節機能を強化

- ・人口減少・高齢化社会に対応すべく、駅前広場を適正規模に縮小する都市計画決定を断行！
- ・空いたスペースにバスターミナルを移転し、交通結節機能を強化！

**従前の駅前広場** 6,900㎡

- ・S54都市計画決定
- ・人口及び鉄道利用者は増加する前提で、平成6年の北見駅乗降者数24,000人／日として規模算定し、面積を決定。

## 整備後の交通広場・駅前広場

- ・H28都市計画決定
- ・実態に合わせ、北見駅乗降者数1,400人／日として規模算定し、面積を決定。
- ＜駅前広場＞ 3,500㎡
- ・適正規模に縮小し、再整備。
- ＜交通広場＞ 4,600㎡
- ・バスターミナル機能を交通広場として新たに都市計画決定！

### 交通結節機能の強化

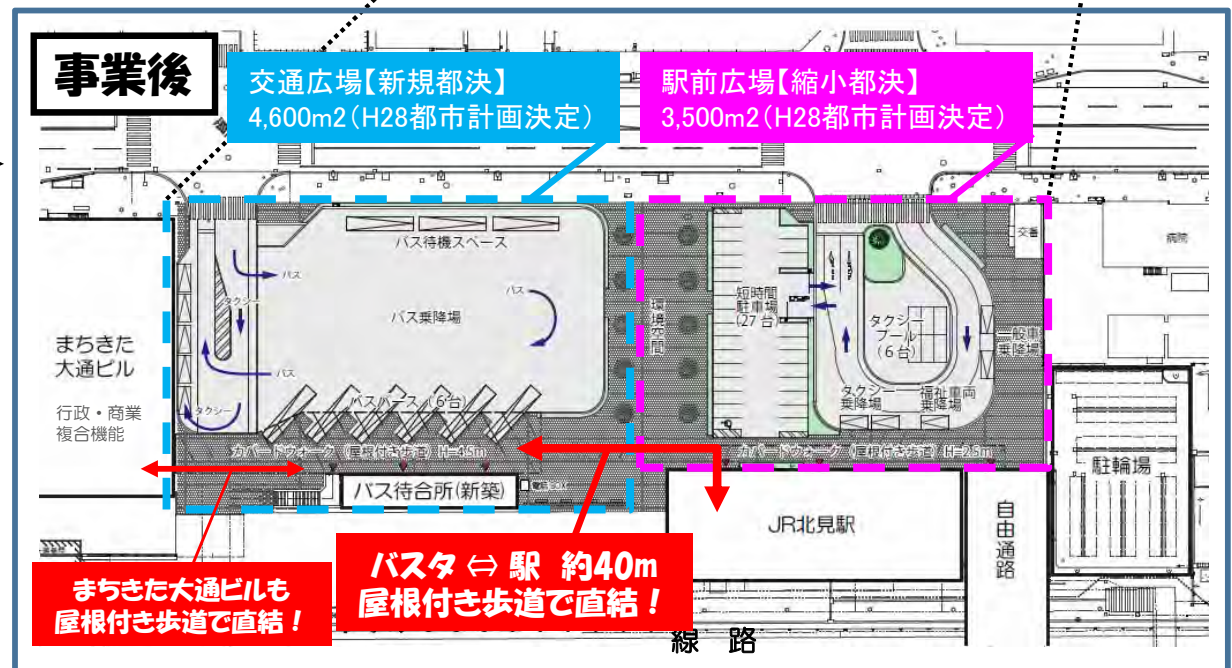
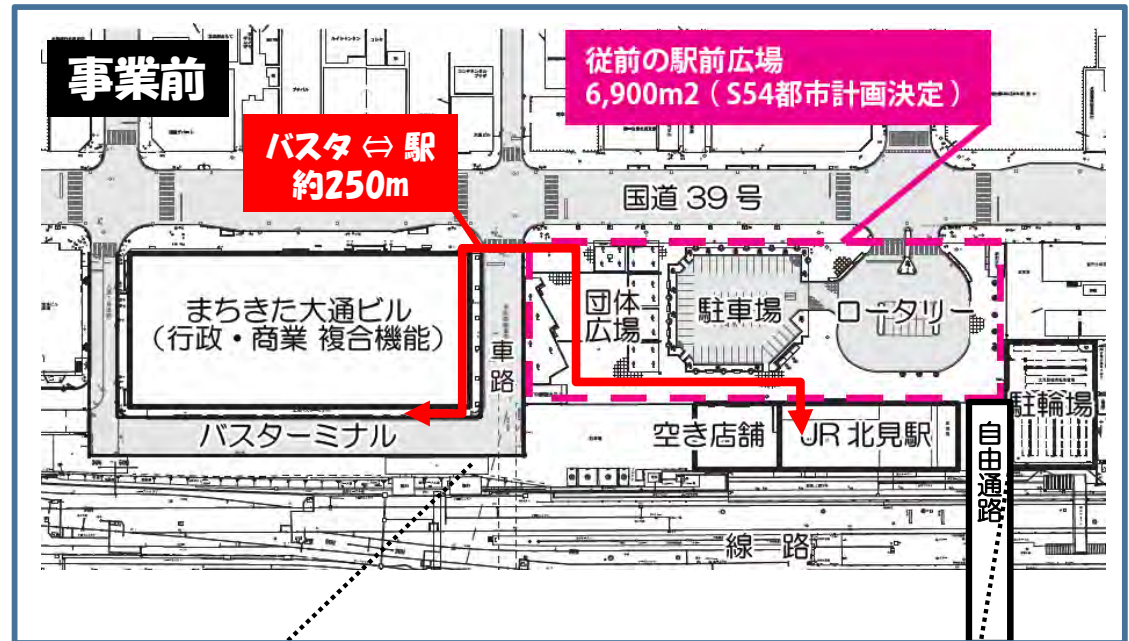
○バスターミナルと駅前広場が直結し、大変便利に！

### ゆとりある広場を実現

○交通広場と駅前広場それぞれで算定された環境空間を一体化して確保することにより、適度にゆとりある広場を実現！

### 副次的な効果も誘発！

- 事業の一環で駅舎横の空き店舗が撤去され、景観が向上。
- JRにより駅舎外壁の塗り替えが行われ、景観が向上。
- 日本郵政によりご当地ポストが新設され観光スポットに！
- 環境空間でマルシェが初開催。駅前がにぎわいの空間に！



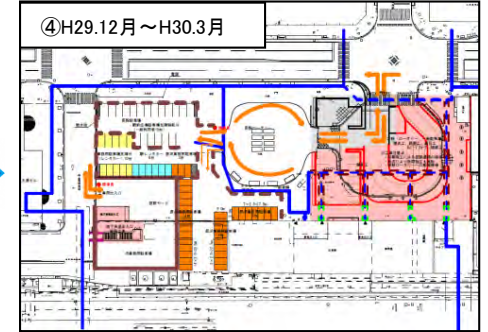
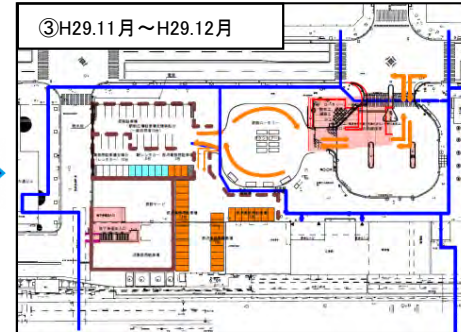
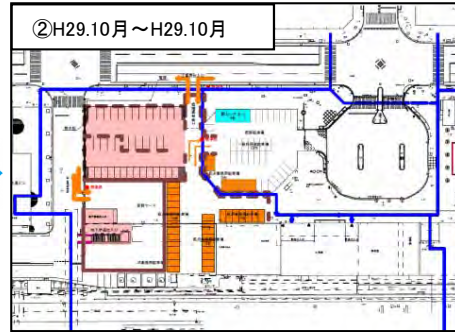
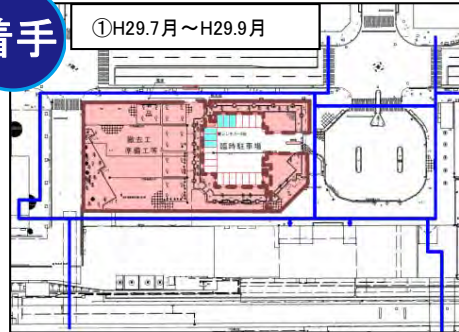


# 苦労や工夫等アピール資料

JRと随時協議しながら、限られた工事区域内で  
・歩行者動線  
・ロータリー機能(一般車/タクシー乗降場)  
を常時確保し施工を進めました。

## ◎当事業最大の課題・・・駅機能を常時確保しながらの工程管理

着手



仮設歩行者動線の様子①



仮設歩行者動線を切り回しながら施工

仮設歩行者動線の様子②



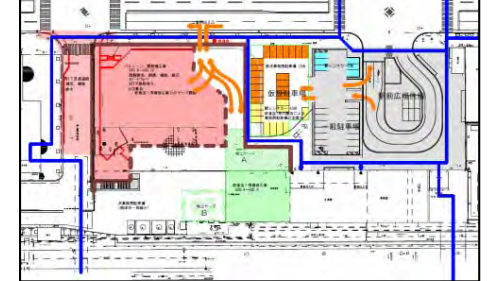
駅舎各出入口に仮橋を設置

代替駐車場の様子

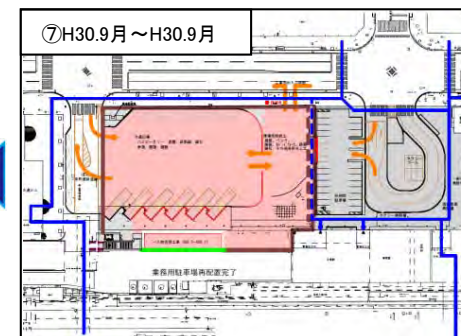
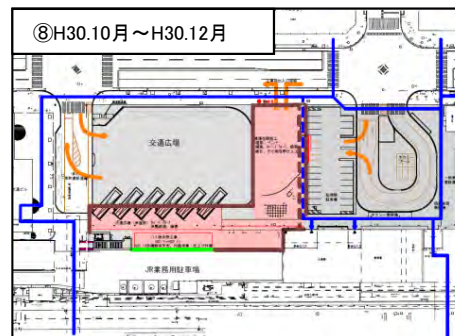
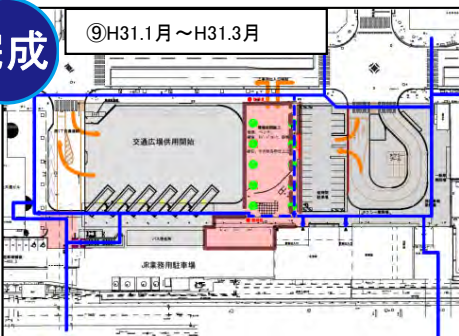


工事区域内で一般・JR関係車両の駐車場の確保

⑤H30.4月～H30.6月



完成





受賞歴・報道資料



### 北見駅前「まちの顔」に新交通拠点

## 北見駅前「まちの顔」に新交通拠点

### 記念式典 門出祝う

北見市のまちきた大通ビル・パラホからJR北見駅前に移転した新しいバスターミナルが15日、開業した。記念式典が開かれ、辻直孝市長ら約40人が「まちの顔」となる交通拠点の門出を祝った。

あいさつで、辻市長は「前のにぎわい創出につながることを期待する」と述べ、北海道北見バスの山村敏之社長は「多くの人々に利用したい」と力を込めた。テープカットの後、参加者は札幌行き都市間高速バス2台の乗車を体験した。新しいバスターミナルは、市が市役所建て替えを含む都市再生整備事業の一環で行った。札幌、旭川などへ結ぶ都市間高速バスや北見市街、近郊の路線バスが1日当たり平均約330本、休日には約260本発着する。乗降場のレーンは1台増えて、6台となった。北見駅との間は雨や雪を避けて歩くことが出来る屋根付き歩道(カバードウォーク)が整備された。床面積約190平方メートルの待合所には、運行情報を知るためのモニターのほか、発券窓口や多目的トイレなどが設けられた。市内の無職阿部秀樹さん(53)は「きれいになったことで、全体的に明るくなった印象を受ける」と話していた。

④バスターミナル開業を祝って行われたテープカット  
⑤新しい待合所。運行情報のモニターが設けられた  
(いずれも岩崎勝撮影)

↑ H30.12.16 北海道新聞 (オホーツク面)



### バスターミナル 北見駅前に移転

北見市のまちきた大通ビル・パラホにあった北見バスターミナルが、JR北見駅前に移転し、12月15日に開業した。タクシー乗り場や駐留も順次一新され、北見の鉄道と道路の玄関口が生まれ変わった。

バスターミナルは乗降場のレーンが1台増えて6台となり、札幌と結ぶ都市間バスや北見市街、近郊の路線バスが1日当たり平均約300本、休日は約260本発着する。待合所は床面積約190平方メートルで、運行情報を知るためのモニターや発券窓口、多目的トイレなどを備える。駅前には1月、重さ約20トンの本物のカーリングのストーン(石)を載せた郵便ポストも設置された。JRやバスの利用客以外の観光客からの利用を集めようとする。▼ロビーの活版屋で知名度が産地となった「カーリングのまち北見」の玄関口のリニューアル。利便性の向上の一環、どのような観光客を呼び込みたいかが、市や観光協会など関係団体一体となった観光振興策に注目している。(飛谷知恵)

↑ H30.12.26 北海道新聞 (2018オホーツク重大ニュース特集)

### 北見バスターミナル移転2カ月

## 利便性、快適さ 歓迎の声

JR北見駅前に移転した北見市の新しい交通拠点「北見バスターミナル」の開業から2カ月が過ぎた。移転により、鉄道、バス、タクシーの乗降場が駅前に集約され、乗り継ぎの利便性がアップ。利用者や観光関係者からも、生まれ変わった「北見の玄関口」を歓迎する声が上がっている。北見駅構内の売店の売り上げが約1.5倍に増えるといった、移転による波及効果も表れている。(飛谷知恵)

北見市のまちきた大通ビルのバスの発着本数は、平日が約330本、休日約260本。管理運営する北見市が事業費約1億4500万円をかけた。2年前から工事本格化させている北見駅前再開発の一環。移転の事業費は約3億2千万円で、新ターミナルは昨年12月15日に開業した。

新ターミナルには、市内や郊外、都市間バスが入る。6台分の乗降レーンが整備された。待合室からの眺望もよくなった。新ターミナル開業による効果は、周囲にも広がっている。北海道キヨスク(札幌)が運営する同駅構内の売店「北海道四季彩館北見」では、都市間バスの利用者を中心に、弁当や菓子、飲み物、土産などを購入する人が急増。土産や弁当は駅利用者が限られ、これ

「北見の玄関口」として生まれ変わった北見バスターミナル

### JR駅構内 売店の売り上げ1.5倍に

「北見の玄関口」として生まれ変わった北見バスターミナルの開業から2カ月が過ぎた。移転により、鉄道、バス、タクシーの乗降場が駅前に集約され、乗り継ぎの利便性がアップ。利用者や観光関係者からも、生まれ変わった「北見の玄関口」を歓迎する声が上がっている。北見駅構内の売店の売り上げが約1.5倍に増えるといった、移転による波及効果も表れている。(飛谷知恵)

駅前再開発は3月末に終了予定。バスの乗降レーンには、ベンチを備えた憩いの広場が開設され、屋根付きの歩道はパラホまで延長される。ターミナル移転による影響を心配していたラボ側だが、今のところ集客には変わりがないという。「駅前には変わりがないが生まれれば、来店客が増える」と今後の波及効果の広がりに期待を寄せる。

新ターミナル開業を弾みに、利用客や観光客を呼び込もうとする機運も高まっている。乗客を増やす利用促進策を考えた」と北海道北見バス。北見市観光協会も「観光推進には2次交通網の充実が必要。交通事業者とともに、オホーツク管内各地へ移動しやすい交通体系や運行情報の発信を検討したい」と乗り気だ。

↑ H31.2.19 北海道新聞 (オホーツク面)



受賞歴・報道資料



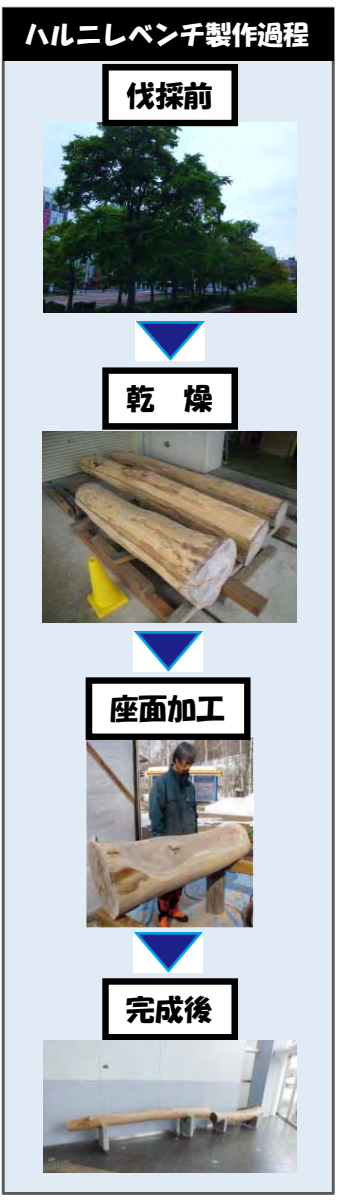
北見駅前「憩いの広場」きょう開放

カツラの木並び  
休憩スペースに  
再開発事業が終了

北見市は、JR北見駅前再開発の一環で整備を進めてきた駅前の「憩いの広場」を26日正午から開放する。カツラの木が並び、ベンチが設置された屋外の休憩スペースが設置された憩いの広場(岩崎勝撮影)

北見市は、JR北見駅前再開発の一環で整備を進めてきた駅前の「憩いの広場」を26日正午から開放する。カツラの木が並び、ベンチが設置された屋外の休憩スペースが設置された憩いの広場(岩崎勝撮影)

H31.3.26 北海道新聞 (オホーツク面)



植えられて、市民に長年親しまれてきたハルニレの木を使った3人がけのベンチを3台製作しており、駅の南北を結ぶ中歩道の中央プロムナード北口1階の入り口に、4月以降に設置する。(熊谷知喜)

北見駅前でキッチンカーマルシェ

JR北見駅前再開発の一環で、今春駅前に完成した「憩いの広場」で6月12、14日の午前11時～午後5時、車内で調理できるキッチンカーを3、4台並べて食事販売する「ミニマルシェ」が初めて開かれる。キッチンカーを活用したイベントを開催している北見市雇用創造協議会が企画した。同協議会がキッチンカーを希望者に無料で貸し出すほか、キッチンカーを所有している業者に出店を呼び掛ける。

昨年6月には同協議会主催イベントで、キッチンカー3台が中央公園(北4西1)でカレーやハンバーガー、シエラなどを販売し、5日間で計900人が登場した。同協議会は生まれ変わった駅前で、新たな「ぎわいづくりの可能性を探りたい」と強調する。今回はJR石北線の利用促進策にも位置付けられている。キッチンカーの無料貸し出しは市内の事業者、個人または市内で事業を始めた個人が対象。希望者は20日までに、同協議会(0157・57・1605)へ。(水野寛)

← R1.5.15 北海道新聞 (オホーツク面)

ランチ、おやつ  
キッチンカーで  
北見駅前で「マルシェ」

キッチンカーで料理などを販売するイベント「キッチンカーミニマルシェ」が12日、JR北見駅前の広場で始まった。4台のキッチンカーで提供するのは、ラーメン、ホットサンド、ワッフル、シエラ。初日から会場は会社員を中心に多くの来場者でにぎわった。北見市雇用創造協議会が、市内中心部にぎわいづくりを目指して企画した。JR北見駅前で会場を開催するのは今回が初めて。

↓ R1.6.13 北海道新聞 (オホーツク面)



JR北見駅前で始まった「キッチンカーミニマルシェ」で料理を受け取る来場者